



地域研究集会

第6回海と漁業と生態系に関する研究集会

海産哺乳類と漁業と生態系の関わり

日時：2023年11月18日（土）13:00～17:10（受付12:50～）

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館大講義室（オンライン併用）

共催：水産研究・教育機構水産資源研究所

コンピーナー：金治 佑，服部 薫，佐々木裕子（水産機構資源研），中村 玄（海洋大）

問合せ先：kanaji_yu96@fra.go.jp（金治）

参加登録：<https://forms.office.com/r/LfBMFwEJE>



1. 挨拶：木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会長）
13：00～13：10
2. 趣旨説明：金治 佑（水産機構資源研）
13：10～13：20
3. 話題提供
座長：前田ひかり（水産機構資源研）
 - (1) 鯨脚類と水産業の現在
13：20～13：45
服部 薫（水産機構資源研）
 - (2) 鯨類個体数の長期モニタリング：ツチクジラを例に
13：45～14：10
佐々木裕子（水産機構資源研）
 - (3) 頭骨が語る古くて新しい資源生物学
14：10～14：35
中村 玄（海洋大）
 - (4) MSC 認証取得から発足した漁業者による海産哺乳類観測チーム
～漁業が与える絶滅危惧種への影響の把握方法～
14：35～15：00
森 麻緒（(株) UMITO Partners）
 - (5) 鯨類の食性と海洋環境の変化
15：00～15：25



大泉 宏 (東海大)

(6) 北海道西部日本海におけるオットセイの分布の特徴

15 : 25 ~ 15 : 50

堀本高矩 (稚内水試)

(7) 黒潮の流路変動と鯨類の分布

15 : 50 ~ 16 : 15

金治 佑 (水産機構資源研)

(8) 鯨脚類によるオホーツク海のバイオロギング海洋観測

16 : 15 ~ 16 : 40

中野渡拓也 (水産機構資源研)

4. 総合討論

座長 : 金治 佑 (水産機構資源研)

16 : 40 ~ 17 : 10

コメンテーター : 村瀬弘人 (海洋大) ・ 米崎史郎 (一般社団法人水産海洋学会副会長)

開催趣旨 : 水産海洋学会は「生物資源と環境の相互作用を明らかにし、水産業の発展に寄与する」ことを所期の目的の一つとして掲げている。同時に、分類群を問わず海洋生態系を構成するすべての要素、即ち水産生物の生息場としての物理・生物環境から、一次・二次消費者、高次捕食者までが研究対象となることも特徴の一つである。鯨類・鯨脚類などの海産哺乳類もまた海洋生態系の重要な構成生物であり、事実、水産海洋学会の黎明期には「鯨漁場座談会」が頻繁に開催され、その成果がしばしば学会紙面を飾っていた。その後漁業規模が縮小したことや、動物学・博物学的な研究対象として関心が高まったことなどから、近年は水産海洋学の対象として海産哺乳類研究の位置づけが十分に整理されているとは言い難い。しかし、様々な水産資源とは資源評価手法としての共通点も多く、また食害や混獲など漁業上の課題も多い。さらに頂点捕食者としての性質から、生態系や環境変動に対する指標生物としても注目される。本集会は、鯨類・鯨脚類個々の種の漁業・生態系への関りを俯瞰しつつ、それらの研究成果が水産海洋学の発展に果たす役割を改めて見直す契機としたい。